

みんなでいい仕事を。
記憶に残る仕事を。



2026

株式会社文工業 知的資産経営報告書

Highly Skilled Craftsman.

目次

I. ごあいさつ	3
II. 当社の紹介	4
1. 経営哲学	4
2. 事業概要	5
3. 業務フロー	7
III. 知的資産	8
1. 価値創造の流れ	8
2. 当社の知的資産	9
IV. 経営環境	13
1. 発電分野をめぐる動向	13
2. 革新軽水炉の取り組み	14
V. 将来展望	15
1. 経営戦略	15
2. 具体的な取り組み	16
VI. 企業概要	18
1. 企業概要	18
2. 知的資産経営報告書について	19

I. ごあいさつ

代表あいさつ

当社は鍛冶と溶接を中核的技術として、プラント建設、建築工事、製造業、土木工事、造船工事に携わっています。

平成27年12月に会社を設立し、10年が経過しました。10年間で振り返ると、元請企業様、協力会社の皆様、従業員、多くの方々に助けられました。当社に厚いご支援をいただいた皆様に、深く感謝しております。

10年という節目において、当社のこれまでを振り返り、現状を分析し、将来への展望を整理することを目的として、知的資産経営に取り組みました。その取り組みの結果をまとめたものが、本報告書です。

工期を厳守すること
品質を厳守すること
多種多様に柔軟に対応すること
これらの3つが当社の特長であることを再認識するとともに、それらの源泉となる知的資産が存在することを明確にできました。

今後は施工管理能力を今以上に高め、一括請負業務の比率を上げていくことを計画しています。そして、2036年度に年商倍増達成、将来の事業承継に向けて、会社基盤の強靱化に取り組んでいきたいと考えています。

本報告書を通じて当社の現在と将来を感じ取っていただければ幸いです。

令和8年5月

代表取締役

大宅 和樹



Ⅱ. 当社の紹介

1. 経営哲学

経営理念

人とのつながりを大切にし、
信頼され、新しい未来を創造していく



方針

みんなでいい仕事を。
記憶に残る仕事を。

Ⅱ. 当社の紹介

2. 事業概要

プラント工事・現場工事

組み立て溶接を主に請け負い、

半自動溶接・Tig溶接・アーク溶接等の難易度の高い溶接を得意とします。

専門のスペシャリストが、命綱と補助の安全ロープを身体に装着し、

地上から吊り上げられる鋼材を図面通りに設置していきます。

製造業・工場製作

当社は工場製缶・鉄骨・鍛冶工事を主に、組立溶接を得意としています。

機械加工で平面加工した定盤を使用しているため、

精度の高い製缶品を製作する事が出来ます。



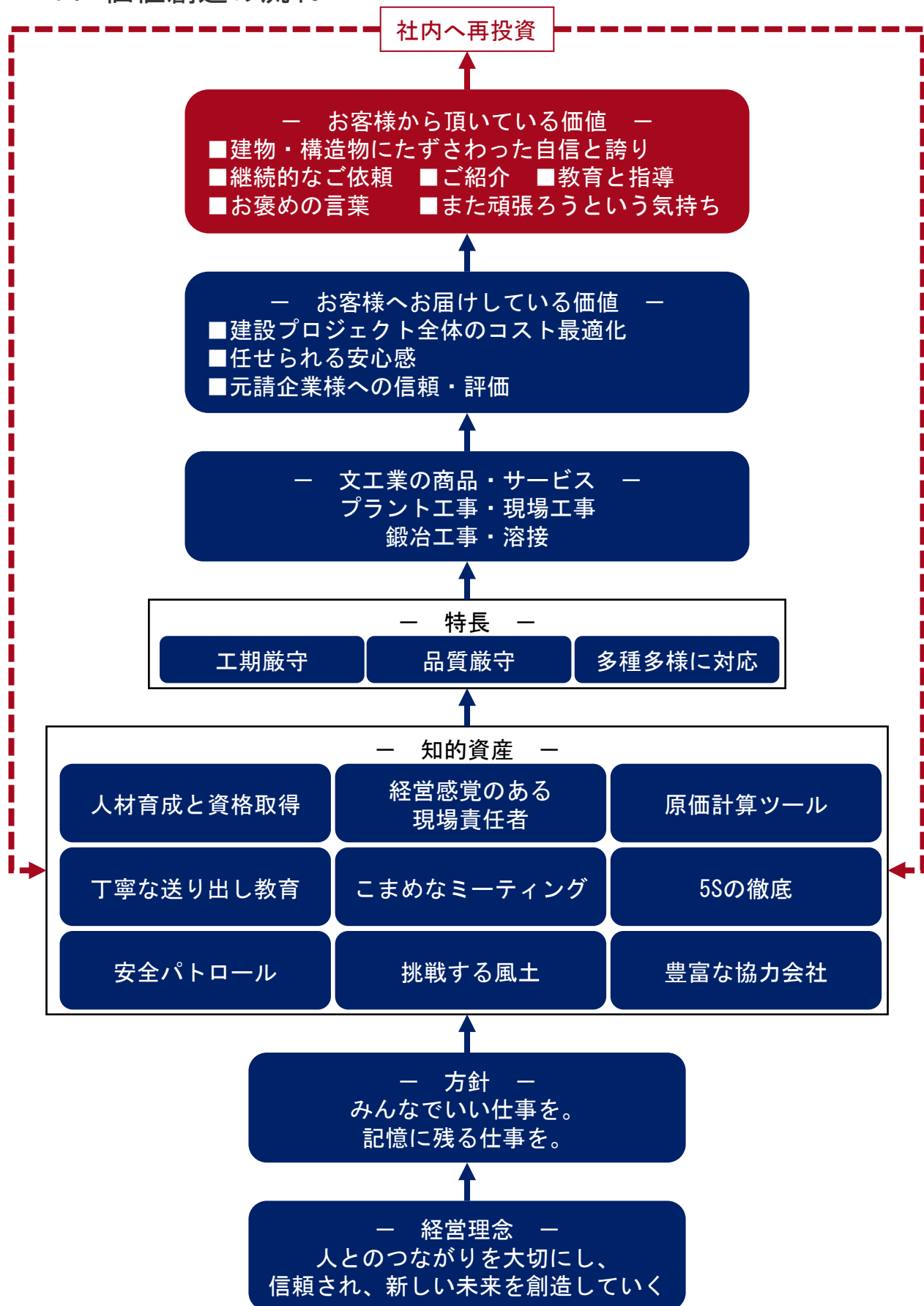
Ⅱ. 当社の紹介

3. 業務フロー

業務名	実施事項	持ち味
1. 営業・商談	<ul style="list-style-type: none"> ■お客様より依頼受付 ■対応可否の判断 ■見積 ■受注 	<ul style="list-style-type: none"> ✓リピートのご依頼が多い ✓受注内容の最終確認は必ず社長が行う ✓難易度の高い仕事でも挑戦する ✓挑戦してやりがいを感じる事が大切 ✓独自の原価計算表で見積
2. 現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ■現地訪問・打合せ ■状況確認（搬入ルート、機材設置場所、近隣環境、施工可能時間帯など） ■材料資材調達先の選定 ■スケジュールの調整 ■現地生活環境の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ✓担当する責任者が必ず現地調査を行う ✓現地で職人が安定して仕事できることを重視 ✓現地での職人の生活面に配慮 ✓現地調査も実践教育の場であると考えている
3. 計画	<ul style="list-style-type: none"> ■工事期間、必要人員数、難易度を確認 ■必要に応じて工事仕様を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ✓道具・工具・機械は自分たちが使いやすい良い、自社のものを持っていく ✓商談段階で精緻に見積・原価計算しているため、道具手配や予算においてトラブルが発生することはほとんどない
4. 人選	<ul style="list-style-type: none"> ■仕事内容にあわせて職人と協力会社を選定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓業種と難易度を勘案して人選 ✓チームとして成果を出すことを意識して人選 ✓人材育成につながるようチーム編成 ✓技量の組み合わせだけでなく、人の個性も考慮
5. 施工	<ul style="list-style-type: none"> ■現地で施工 	<ul style="list-style-type: none"> ✓送り出し教育を重要視している ✓社長と責任者が現地の状況をしっかり確認する ✓個々人の成長度合いを確認する ✓現地での出会いや経験の中で、人間性を磨いてほしいと考えている ✓挨拶や言葉遣いは先輩が後輩にしっかり指導 ✓重大な指摘事項があれば社長が現場で再教育を行う

Ⅲ. 知的資産

1. 価値創造の流れ



Ⅲ. 知的資産

2. 当社の知的資産

人材育成と資格取得

社員の意識と技術の高さが当社の持ち味です。
先輩が後輩に惜しみなく技術を教える。
教えてもらった後輩が、その後輩にまた教える。
そのようにして人が育っています。
また、有資格者もたくさんいます。
一人で複数の資格を持っている人も多数います。
会社が社員の資格取得を支援し、応援しています。
難易度の高い資格には、社長も一緒になってチャレンジすることも。
みんなで切磋琢磨しながら、成長しています。

経営感覚のある現場責任者

当社の現場責任者は経験が豊富で、マルチに対応できます。
現地調査、工程調整、人員配置、元請企業様との調整、原価管理。
現場責任者は様々なタスクをこなしています。
人望と指導力、粘り強さをもって、責任者が現場をまとめてくれています。

原価計算ツール

当社には独自の原価計算ツールがあります。
原価計算ツールを使い、商談段階で見積と原価計算を適切にできています。
そのため、予算や道具手配のことが問題になることは、ほぼありません。
また、工事の成果や進捗状況が数値化されるので、
達成感やモチベーションにつながっています。
逆に、気の緩みがあったときにも、それが原価数字となって現れてきます。
数字は嘘をつきません。
数字と対峙することで、現場責任者の経営感覚が磨かれています。

Ⅲ. 知的資産

丁寧な送り出し教育

送り出し教育を重要視しています。
時間をかけて、現場状況を詳細に伝えています。
気を引き締めてもらう。
そこに主眼を置いて教育を行っています。
自分だけは大丈夫と過信しないように。
過去に失敗した事例をたくさん見せ、失敗の要因、
失敗により生じた結果と影響を伝えています。
遠方で長期間の出張をする現場も多いです。
現地の生活環境も伝え、自己管理をしっかりとできるようにもしています。

こまめなミーティング

コミュニケーションを密に行っています。
責任者が進捗の確認を行い、ミーティングで細かく指示を出します。
品質と工期を守れるように。
繰り返し、何度でも同じことを伝えます。1日に何回も。顔を見るたびに。
厳しいことをしっかりと言い、メンバーへの意識づけを行っています。

5Sの徹底

現場、仕事場はいつも綺麗に。
それを徹底しています。
整理、整頓、清掃ができていない場合はすぐに仕事を止め、
場を整えさせています。
当たり前のことを当たり前にやる、それが仕事の基本です。
ルール破りは伝播し、いろいろな悪影響につながっていきます。

Ⅲ. 知的資産

安全パトロール

安全教育をしっかりと行っているため、現場での事故が少ないです。毎月、代表が安全パトロールを行い、声掛けと指導を行っています。現場の良し悪しは、メンバー同士の会話ですぐにわかります。良い現場は、メンバー同士で建設的な会話がなされています。アクシデントの予兆が見受けられれば、すぐにメンバーを招集し、代表が直接、指導を行います。また、パトロールで訪問した際には、元請企業様とコミュニケーションをとり、当社作業に対する評価を代表自らが直接、確認しています。

挑戦する風土

難しい仕事でもできる限り受けたいと考えています。基本的に、自分たちの力量にあわせた受注活動をしています。難易度は高いが、ちょっと頑張ればできる仕事を積極的に受けて、力量アップにつなげています。社員の挑戦を会社は応援しています。失敗の中から覚え、学んでもらう。成功するまで挑戦させる。そのようなスタンスで、挑戦する風土づくりを行っています。

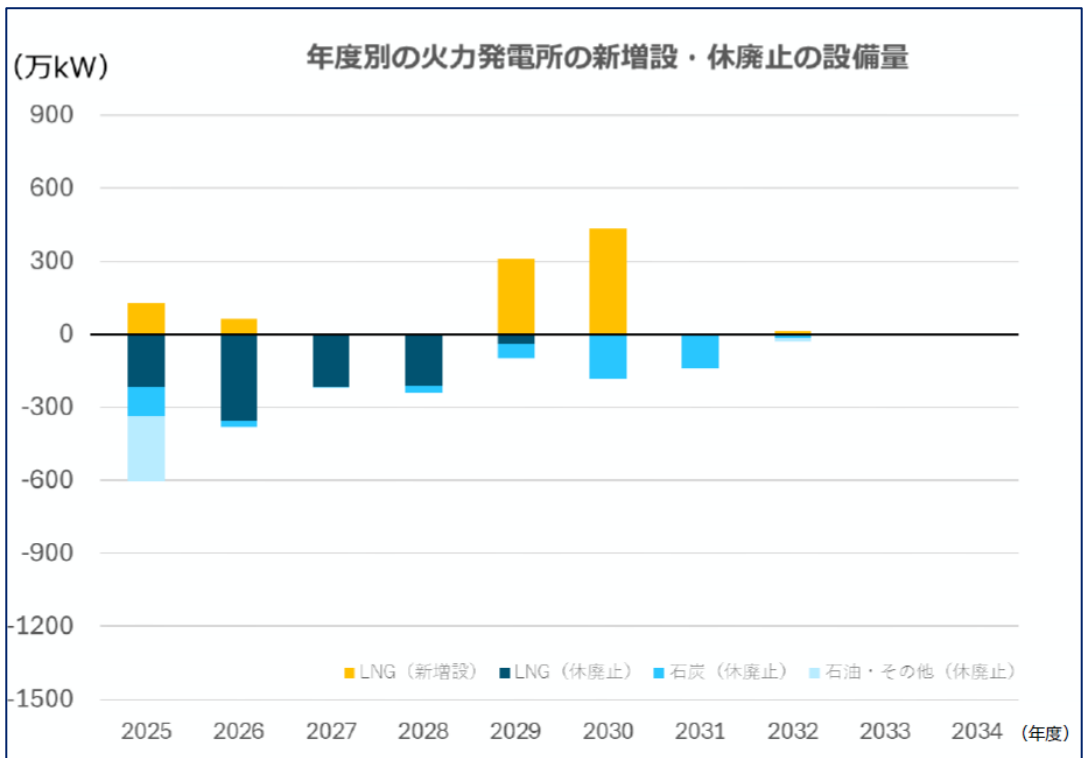
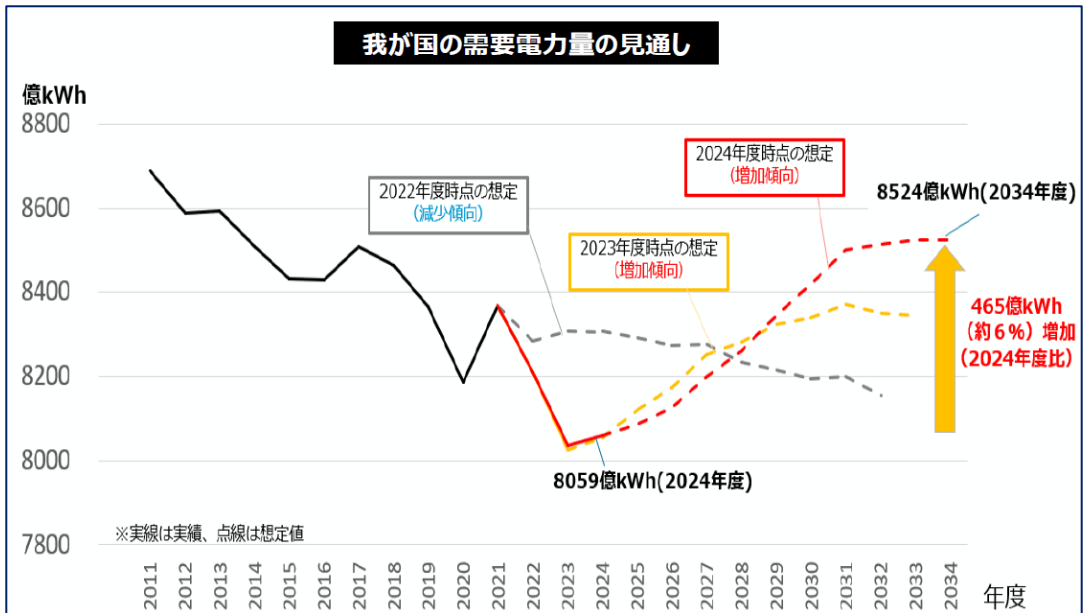
豊富な協力会社

仲間である協力会社が全国にたくさん存在します。電力、石油プラント、土木など、溶接・鍛冶工事の中でも、幅広い分野の仲間に、助けてもらっています。人間同士の付き合いを大切にする中で、つながりを広げてきました。初めて仕事を依頼する場合には、電話の依頼だけで済まらず、必ず訪問します。会社を見て、仕事に対する考えや姿勢を把握した上で、仕事をお願いしています。



IV. 経営環境

1. 発電分野をめぐる動向



出典：第1回 産業構造審議会
イノベーション・環境分科会 排出量取引制度小委員会
発電ベンチマーク検討ワーキンググループ 資料4

電力広域的運営推進機関が公表した、電力需要の見通しでは、データセンターや半導体工場の新増設等の影響によって、今後10年で電力需要が約6%増加する見通しとなっている。一方、今後、火力発電は石炭やLNG電源の休廃止が、新増設を上回る規模で推移する見通しである。

IV. 経営環境

2. 革新軽水炉の取り組み

- エネルギー資源に乏しい我が国においては、S+3E（安全性(Safety)、安定供給(Energy security)、経済効率性(Economic efficiency)、環境適合(Environment)）の観点が非常に重要であり、**電力の安定供給の確保や電源の脱炭素化に資する原子力については、安全性確保を大前提として、将来にわたり持続的に活用することが不可欠。**
- 「GX実現に向けた基本方針」(2023/2/10閣議決定)及び「今後の原子力政策の方向性と行動指針」(2023/4/28原子力関係閣僚会議決定)において、国の方針として「次世代革新炉の開発・建設に取り組む」ことが示された。なお、原子力を含む脱炭素電源への新規投資を促進するため「長期脱炭素電源オークション」の運用も開始された。
- 上記方針の発出以降、現時点で事業者として新たにプラント建設の意志表示はしていないが、このままでは国内の原子力設備容量は時間とともに減少していくため、**新たなプラント建設が必要になると**考えている。また、原子力特有の高い技術を有するサプライチェーンを維持していく観点からも、新たなプラント建設は重要。
- 現行の中大型軽水炉の設計をベースに最適化された安全設備等によって安全性を高めた**革新軽水炉は、既存技術の延長線上にあり成熟度が高く、事業者が早期の導入に向けて選択する可能性が最も高い炉型。**国内では一部の電力会社と各メーカーが革新軽水炉の開発を推進中。原子力学会においても技術要件等が整理されているところ。
- **現行の規制基準は既設軽水炉を前提に作成されていることを踏まえ、ATENAに革新軽水炉WGを設置し、「主要な海外規制基準と国内の現行規制基準との比較」や「革新軽水炉と規制基準との関係性」に係る検討を進めてきた。**

三菱重工業 SRZ-1200

電気出力：約1,210MWe



日立GE HI-ABWR

電気出力：1,350~1,500MWe



東芝ESS iBR

電気出力：800~1,600MWe

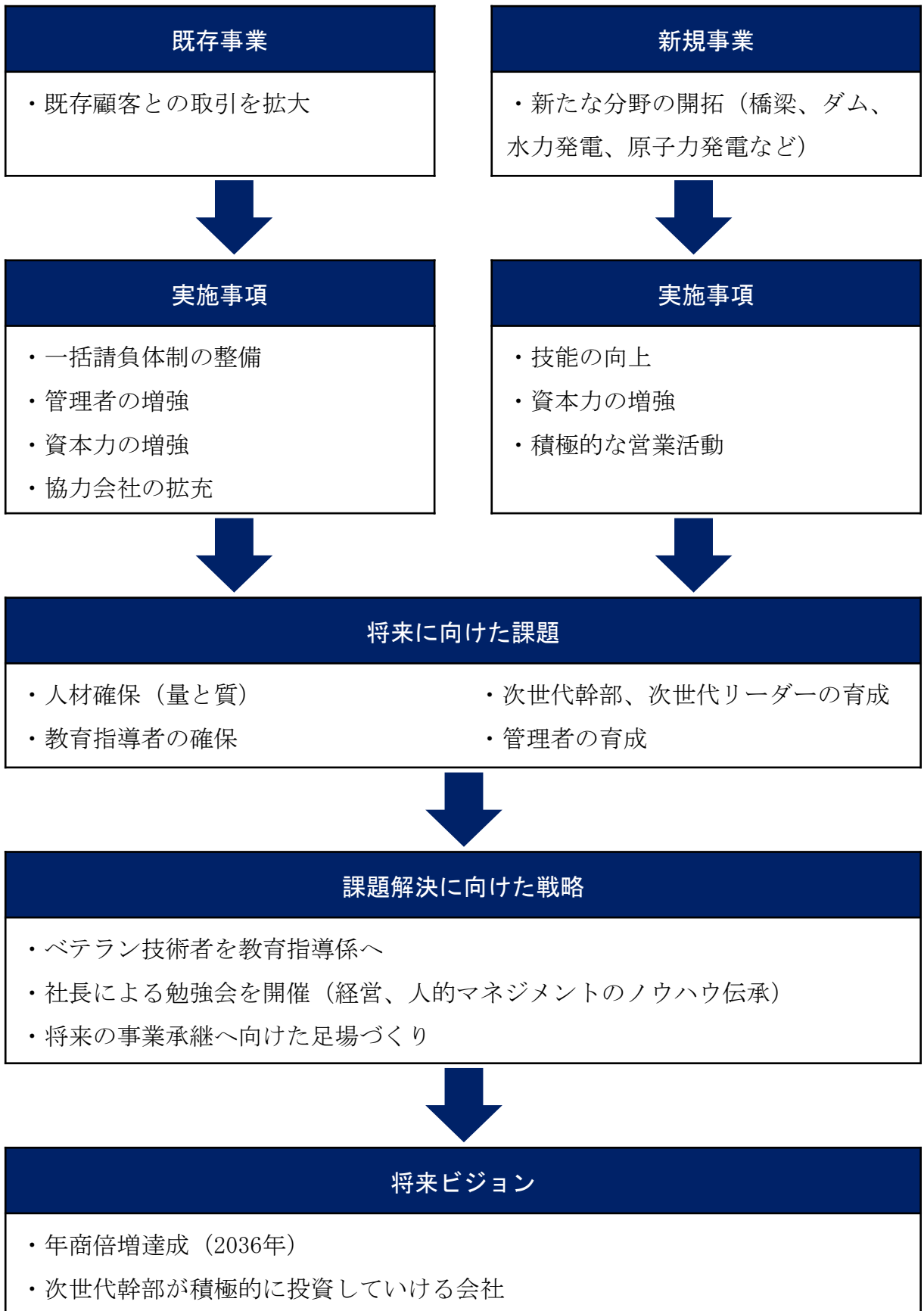


出典：第40回 総合資源エネルギー調査会
電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 資料4

電力の安定供給の確保や電源の脱炭素化に資する原子力発電を継続的に活用するため、革新軽水炉の導入に向けた開発が進められている。国内PWR 4 電力と三菱重工業は、革新軽水炉「SRZ-1200」の共同開発を推進。日立GEや東芝ESSにおいても「HI-ABWR」や「iBR」の開発を推進。

V. 将来展望

1. 経営戦略



V. 将来展望

2. 具体的な取り組み

次世代幹部・リーダーの育成

幹部・リーダーの責務には、幅広い力量が求められます。

営業スキル、人手を確保できる人脈、財務面の知識、事務管理など。

これらの能力を習得するためには、

実際に経営実務の経験を積むことが必要です。

2028年頃をめどに、現在の課長職に社長の仕事の一部を担ってもらいながら、幹部・リーダーとしての素養を身に付けていってもらおう計画をしています。

若手社員の拡充

若い人材を積極的に採用し、育てていきたいと考えています。

一括請負で大きな現場にたずさわる際には、必ずプロパー人材を管理者として、現場に配置することが必要となります。

若い人材にしっかり勉強してもらい、

現場管理の役割を担ってもらいたいと考えています。

5～10年後を目途に新卒採用も行っていくことを視野に入れていきます。

また、女性の採用も積極的に行っていきたいです。

根気強く、細部まで気配りができる。

そのような女性ならではの特長が、

品質の高い現場管理を生み出すと考えています。

教育体制の充実

若い人材を伸ばすため、教育体制の充実を図ります。

具体的には、ベテラン技術者に教育係になってもらい、若手教育を行います。

資格取得支援も引き続き行うとともに、

キャリアアップへの動機づけを行っていきます。

V. 将来展望

評価制度の確立

社員一人ひとりの「頑張りどころ」を明確にすることが必要だと考えます。そのために、昇進・昇格の基準を作り、職能の明確化を行っていきます。個々の目標設定の指針となる。そのような評価制度を確立していきます。

幅広い工種に対応

幅広い工種の仕事を意識的に獲得していきます。一括請負を行うためには、溶接、鍛冶、足場、塗装などすべてを、施工・管理できる能力が必要です。様々な工種を経験する場を増やすことで、現場責任者の力量向上を図っていきます。

働きやすい環境の整備

良い人材を採用し、育て伸ばしていくためには働きやすい環境が必要です。縁があり良い物件に出会うことができれば、新たな本社事務所に移り、より良い労働環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。可能であれば、社員寮を構えるという夢も描いています。

VI. 企業概要

1. 企業概要

会社名	株式会社文工業
代表者	代表者取締役 大宅 和樹
設立	2015（平成27）年12月1日
	【本社事務所】 〒678-0041 兵庫県相生市相生4丁目15-12 TEL. 0791-56-5667 FAX. 0791-56-5997
所在地・連絡先	【若狭野事務所】 〒678-0081 兵庫県相生市若狭野町入野506-1 TEL. 0791-53-9012 FAX. 0791-53-9018
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・船舶、艦艇の建造、改造、修理及び解体・部材製造・鋼構造物工事業（現地施工及び工場製作）・管工事業（現地施工及び工場製作）・とび、土工工事業・機械機器設置工事業（現地施工及び工場製作）・土木工事業（現地施工及び工場製作）・建築工事業（現地施工及び工場製作）・塗装工事業（現地施工及び工場製作）・各種溶接事業（現地施工及び工場製作）・各種後基礎工事業（現地施工及び工場製作）・発電所プラント建設（現地施工及び工場製作）・労働者派遣事業・有料職業紹介事業・衛生管理機器販売業
事業許可	建設業許可 兵庫県知事許可（般-5）第462923号 労働派遣事業 厚生労働大臣許可（派-28）第301832号 有料職業紹介事業 厚生労働大臣許可番号 28-ユ-301270 古物商許可 第631652400012号
資本金	2,000万円
資格取得	1級土木施工管理技士：2名 2級土木施工管理技士：2名 2級建築施工管理技士：2名 2級管工事施工管理技士：1名 2級溶接管理技術者：3名 AW 溶接工：10数名 TW 溶接工：数名 普通ボイラー溶接士：5名 JIS資格者（半自動溶接・アーク溶接・Tig溶接）：多数所属
主な取引先	太平電業株式会社 株式会社川哲工業 日本製紙石巻テクノ株式会社 株式会社神鋼環境ソリューション

VI. 企業概要

2. 知的資産経営報告書について

【知的資産経営報告書とは】

「知的資産」とは、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、クライアントとのネットワークなど財務諸表には表れてこない、目には見えにくい経営資源を意味します。「知的資産経営報告書」とは、見えにくい経営資源、即ち非財務情報を、債権者、株主、クライアント、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）の形でわかりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。平成17年10月に経済産業省から「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠しています。

【知的資産経営報告書の掲載内容について】

本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画ならびに付帯する事業見込みなどは、全て現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて掲載しています。そのため、将来にわたり当社の取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生ずることもあり、その際には本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことをご了承願います。

【知的資産経営報告書のお問い合わせ先】

株式会社文工業
兵庫県相生市相生4丁目15-12
TEL. 0791-56-5667





HUMIKOUGYOU

株式会社 文工業

